

特集

夫婦について考える

「高齢期において重要なことは何か？」という問いに対し、「健康であること」に次いで多かったのは、「良好な夫婦関係を保つこと」という答えでした。子どもの成長や仕事の変化に伴い、見直しを余儀なくされる家族のライフスタイルですが、意外に夫婦関係についての見直しをはかる機会は少ないようです。今特集を機会に、改めて「夫婦」について考えてみてください。



2組のご夫婦に聞きました

教えて！

夫婦のカタチ

素敵な人生を送っている2組のご夫婦を紹介します。それぞれの「夫婦のカタチ」は違っても、「やっぱり夫婦っていいね！」って思えるから不思議です。

福井誠治さん (73歳)
悦子さん (66歳)
三浦市在住

クジを引いたのは自分。
相手に多くを望まず、
仲良く健康でいられる
今に感謝しています。



永村直志さん (85歳)
マリ子さん (78歳)
三浦市在住

ケンカしながら、
あつという間の60年。
性格が違うからこそ、
会話も楽しめる2人。



「三度の飯より歩くことが好き」という誠治さんは、自他共に認めるヘビーウォーカー。毎日のように、神奈川県内の歩け歩け協会が主催するウォークに参加、日本ウォーキング協会認定の公式距離は2万5000kmにも及ぶそう。誠治さんいわく「一日10km〜20kmコースは当たり前。日程が調整できれば、午前と午後2つのウォークに参加し、30km歩行も朝飯前」。歩くことが、生活習慣病や認知症予防になることを知ったのは、つい最近のこと。ウォーキング仲間から「元気に歩いていれば、ある日お迎えが来てポックリ死ぬる」と聞き、ますますハマっています。町や自然散策はもちろん、人々との出会いや記録への挑戦もまた楽しいと、その魅力を語ります。

そして、そんな誠治さんを支えるのは、奥様の悦子さん。出発時間に合わせ、早朝から手づくりのお弁当を用意します。

「ずっと共働きだったので、私のほうが帰りが遅いこともありましたが、そんなときも嫌な顔ひとつせず、家事や育児を引き受けてくれた夫にはとても感謝しています。だからこそ、リタイア後はバトンタッチ。私が家を守るから、好きなことをしてもら

いたい」と悦子さん。なるほど、そんな理由があったのですね。

そして、誠治さんが家を留守にする間の悦子さんが、せっせと励んでいるものといえば、「折り紙手芸」。「チラシや包装紙を利用するので、お金もかかりません。テレビを見たり、人と話しながらでも手は動かせる。指先を使うのでボケ防止にもなるし、人になれば喜ばれる。最高の趣味でしょ!」と朗らかに笑います。

歩くこと以外はなるべくわがままを言わず、妻の良いところを「心の中で」ほめて感謝しています（笑）と誠治さんが言えば、「度々連れていってくれる旅行や観劇、コンサートが、日頃の『ありがとう』の気持ちなんでしょう」と悦子さん。「もうすぐ川中美幸のコンサートがあるので、今から楽しみ」と笑顔の2人。

結婚して43年。現在は息子さんと、中学生と小学生2人のお孫さんにも恵まれています。「人生の終盤にきてつくづく思うのは、子どもや孫たち、家族みんなが健康で、妻がニコニコしているのが一番。夫婦円満のコツは、お互い『クジを引いたのは自分』と相手に多くを望まず、今あるご縁に感謝して、最後までできるだけ長く連れ添いたい」と誠治さん。

おおらかでよくよしない性格だが、人づきあいはあまり得意でないという直志さんに対し、社交的で誰とでも気さくに接することができるが、ささいなことで思い悩んでしまうタイプのマリ子さん。そんな両極端な性格の夫婦がひとつ屋根の下に暮らして59年、来年はダイヤモンド婚式を迎えます。

自営業のため、これまでの人生のほとんどの時間を共有してきた2人「口げんかや行き違いはしょっちゅうでしたが、仕事と家事・育児の忙しさにまぎれ、そんなことにいちいちかまっではいられませんでした」とマリ子さん。仕事に生活、趣味やニュースの話題に至るまで、とにかく何でもよく話す2人。

性格が違えば趣味も違います。お互いに好きなことを楽しむのがモットー。三味線や踊りが好きなマリ子さんは、練習に励んだり、芸事仲間と老人施設に慰問をしたり。今でも家事を終えたら、趣味の時間。自宅にこもり三味線をつま弾きます。

また大衆演劇が好きで、娘さんを伴っては出かけるというマリ子さん。「夫と一緒に楽しめたらと思ったこともありですが、絶対に誘いに応じない夫。さすがに今は、娘と出かける

私を、快く送り出してくれるだけでも十分と思えるようになりました」。

一方ご主人の直志さんは、お墓参りのついででの散歩が日課です。いまだに背筋をピンと伸ばし、颯爽と歩く姿はかっこよく、とても若々しい。数年前、脳梗塞で倒れたこともありましたが、幸い後遺症も残らず、今は元気そのもの。軍隊時代の方々とつづけているサークルの、会計やまとめ役を務めるなど、面倒見がよくて几帳面。そんなことも若さの秘訣なのかもしれません。

性格の違いはこんなところにも表れます。直志さんに前立腺の病気が発見されたとき、途端におろおろしたのはマリ子さん。悪い事ばかりを想像し、今にも寝込みそう。対して、ご本人は至って冷静。自分の病気の心配もよそに、落ち込む妻を叱咤激励。「娘には、どちらが病気がわからないと呆れられました」と直志さん。

「離婚原因の多くに『性格の不一致』があげられますが、わが家の場合はその逆で、性格の不一致こそ夫婦円満の秘訣。ケンカをしながらも今日までこられたのは、お互いの『でこぼこ』な部分をカバーし合ってきたから」。そんな2人にとって、60年はあつという間の出来事のようにです。